

司式:土屋昌子  
奏楽:堀口恵美

前奏:「我ら悩みの極みにありて」(J.S.バッハ)

招詞:主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。(イザ55:6.7b)

讚美歌 8「心の底より」

罪の告白・赦し

聖霊を求め祈り

朗読聖書①詩編 103:6-13

- 06 主はすべて虐げられている人のために/恵みの御業と裁きを行われる。
- 07 主は御自分の道をモーセに/御業をイスラエルの子らに示された。
- 08 主は憐れみ深く、恵みに富み/忍耐強く
- 09 永久に責めることなく/とこしえに怒り続けられることはない。
- 10 主はわたしたちを/罪に応じてあしらわれることなく/わたしたちの悪に従って報いられることもない。
- 11 天が地を超えて高いように/慈しみは主を畏れる人を超えて大きい。
- 12 東が西から遠い程/わたしたちの背きの罪を遠ざけてくださる。
- 13 父がその子を憐れように/主は主を畏れる人を憐れんでくださる。

朗読聖書②マタイによる福音書 6:9-15

- 09 だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように、
- 10 御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。
- 11 わたしたちに必要な糧を今日与えてください。
- 12 わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように
- 13 わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。』
- 14 もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。
- 15 しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。』

### 祈祷

恵みに富み給う主なる神さま、三月最初の聖日をあなたに招かれ、この御堂で、またライブ配信により御前に集められ、礼拝を献げることを赦されましたことを心より感謝いたします。過ぐる一週、御言葉を糧として歩む者でありつつ、忙しさに心を奪われ、感謝に乏しく、祈りを忘れることもありました。私たちに今一度、御前に立つことの畏れを、どうぞ今朝、思い起こさせてください。

世界は日々刻々と変化し、為政者の言動が世を騒がせ、世界は混沌し渾沌の中にあります。“あなたは心を騒がせるな…(ヨハ 14:1.27 他)”と教えられました。どうか、私たちに立つべき所を教えてください。

過ぐる二月、私たちは、2 日間にわたる教会総会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。教会は世にあって、世を超えて生きるものであります。議され、定められた事柄を、あなたの導きと信じ、感謝しつつ、供えられた年度の歩みの中で、再び、三度、吟味しつつ、あなたの御胸を尋ね求めて行くことができますように。

私たちは今年度、信濃町教会創立百年の歴史を学ぶ一年を過ごして参りました。私たちの教会の創立者である高倉牧師が、言い表された『預言者的キリスト教』という信仰の立場を、時代の牧師方が捉え直しに努め、『告白する教会』へと導かれてきたこの群れの一足一足を辿りつつ、先達が残された信仰を心深く受け止め、信仰の養いを頂きながら、守り、育て、この先へと引き継いでいくことができますように。そして、新しくこの群れに加えられたお一人おひとりと、更に新しくこの群れに加えられる人々とは、清かに信仰の道筋を示され、新しい日々を新たに共に歩み行くことができますよう、あなたの御導きを、乞い、祈り求めます。

この月、私たちは、東日本大震災の発生から14年目の3月を迎えます。子どもを愛し、最も小さくされた者に目を留め、共に歩んで下さる主を見上げ、私たちが力弱く呻きをもって歩む者ではありますが、主の歩みに続く者とさせていただきます。

また、『世界祈祷日』を覚えて祈ります。世界の諸民族、特に今年は、クック諸島の人々を覚えて、この地の宣教と女性の働きを覚え、心を寄せることができますように私たちをお導きください。

本日は『聖晚餐』の恵みに与ります。あなたから新しい命を与えられ、『受難節(レント)』へと、歩みを進める準備を為させていただきます。

本日の説教者を心から感謝申し上げます。佃牧師が、あなたの聖霊の導きを豊かに受けて、大胆に御言葉を説き明かす事が出来ますように。私たちの心を開き、御言葉を深く受け止めることができますように、整えてください。

今、病の中にある者を、教会に思を寄せながら夫々の働きの場にある者を覚えます。どうぞ、その一人ひとりの上に、あなたが今日も共にあり、祝福を豊かに与えてくださいますようにお祈り申し上げます。

この日の礼拝を献げるにあたって、主イエス・キリストの聖名によって、この祈りを御前に御献げ致します。アーメン。

聖歌隊〈愛するイエス〉

説教 「罪と赦し」

佃 雅之

“『主の祈り』は、『福音の要約』と言われるほど、私たちに必要なことが全て含まれているものであることは、これまでに何度か話して参りました。私たちは、『主の祈り』に示された言葉の意味をしっかりと理解する必要があります。御心に分かるようになる、キリストの弟子として日々を生きるための原動力となるのが『主の祈り』です。

しかし、その祈りの中に、私たちには“祈ることが難しい”と感じられる言葉があると思います。12節にこうあります。

わたしたちの負い目(オフェイレーマ *ὀφείλημα* [負債=debts]ルカの並行記事では「罪」)を赦してください(アフィエ-ミ*ἀφίημι* [赦す]命7才能2単 *ἄφεσις*)、わたしたちも自分に負い目のある人(オフェイレーマ)を赦しましたように

まず、「わたしたちの負い目(オフェイレーマ)を赦してください」と祈るのですから、この祈りの本質は、私たちが神に対して犯した罪の赦しを願っています。ですからこの祈りを真実なものとして祈りためには、まず、自分が罪人であることを認めなければなりません。私たちは普段、“我らの罪をも赦し給え”と祈っていますが、聖書には「罪」ではなく「負い目」という言葉が使われています。聖書に「罪」という言葉は様々な言い方で使われていますが、言葉の元

の意味は「的外れ」です。私たちがなるべきはずのものになっていない、進むべき方へ進まずに道から逸れることを意味して、「的外れ」という言葉が当てられています。例えば、見るべきものを見ず、聞くべき言葉を聞かず、従うべきものに従わず、信頼すべきものに信頼しない。これら全て



「的外れ」で、「罪を犯している」ということになります。しかし、ここでは、「罪」ではなく「負い目を赦してください、と祈れ」と、キリストは言われています。

「負い目」と訳されているギリシャ語(φωφιείλε-ν)は「債務者」「借金」という意味の言葉です。ですから、この祈りは、「神に対して私たちの借金を帳消しにしてください」と祈っていることになります。私たちは、父なる神から、この命をはじめ多くのものを与えられ、委ねられていながら、自分勝手に使い、浪費してしまって「負債」が生じているのです。「返さなければ」、と思っても、日々、「思いと言葉と行い」によって借金を膨らましてしまうのが私たちではないでしょうか。おそらく、私たちの神への借金は到底返済できない額に達しています。しかし、「負債」をそのままにしておくなら、神との交わりを損なうということが起こり得ます。神への負債を抱えている私たちはどうすればいいのでしょうか。道はただ一つです。「負債」を「赦し」いただく以外にありません。

私たち信仰者は、自分が罪人であることを知り、罪を告白し、洗礼の恵みによって、これまでに犯した「罪」を帳消しにさせていただいた者です。しかし、私たちは「罪」を犯すことを止めません。止めることができません。「罪」とは、どんなに小さくても、神への裏切りです。神の愛を裏切ることなのです。ですからすでに、赦されていても、なお、「罪」を犯す私たちは、神の赦しを求め続けなければなりません。しかし、実際、「私たちは自分の罪の赦しを求めながら、人の罪は赦さない、神が赦しても、私は絶対に赦さない。私はどうしても赦せない。」というのが、本音なのではないでしょうか。

そのような、私たちの心をよくご存じであるキリストが語られた譬え話があります。それがマタイによる福音書 18 章 21 節以下の『仲間を赦さない家来の譬え』です。この譬え話は、弟子のペトロがキリストのところにやって、「主よ、兄弟が私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。7回までですか。」尋ねることから始まります。すると、キリストは、「あなたに言っておく。7回どころか7の70倍までも赦しなさい。」とされています。「7の70倍」というのは、「何でも、何でも、完全に赦せ」ということです。この譬え話は、「ある王に一万タラントンという莫大な借金を免除してもらった家来が、自分が百デナリオン貸している仲間を赦さず借金を返すまで牢に入れておいた」という話です。今の貨幣価値に置き換えると「一万タラントンは6000億円。百デナリオンは100万円」だと言われています。家来は、自分の借金は帳消しにしてもらいながら、仲間を赦すことができなかったのです。この譬え話の結びは、今朝の「主の祈り」の箇所と同じで、「あなた方の一人ひとりが、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父も、あなた方に同じようになさるであろう」というものです。莫大な借金を免除してあげた王は、わずかな借金を免除することができなかった家来にこう語ります。「私がお前を憐れんでやったように、お前も、自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」「赦し」ということを「憐れむ」と言い換えて教えておられます。「憐れむ」は、「愛する」と言い換えることもできます。

信仰生活は「愛」の生活であります。神を愛し人を愛する生活です。愛することは簡単なことではないでしょう。愛することができず、悩み、苦しむことも出会いの数だけあるものです。しかし、赦すことは愛することよりももっと難しいことのように感じます。なぜ、人を赦すことが、これほどまでに難しいのでしょうか。先程キリストの語られた譬え話に触れました。この話は、ペトロがキリストに罪の赦しについて尋ねたことが発端になっていました。この時のペテロは「自分が正しい人間、赦す側の人間だ」と思い込んでいるところがあります。自分に罪を犯した兄弟を赦す側の人間、自分は正しい人間としてキリストに問いかけているのがペトロなのです。私たちも、この時のペトロと同じように、人に対して、「自分は許す側の人間だ」と思い込んでいるところがあります。罪を自分の問題として捉えることができないのが私たちなのです。いわゆる、犯罪を犯すことなく、真面目に生活をしている人は、「私は罪人ではない」と思っているかもしれません。しかし、自分勝手に考え、自己中心になっている。あるいは、自分の立派さに従って生きている。人間からは素晴らしく見えても神に従っていない。そこに「罪」があります。使徒パウロの言葉にある通り「自分には何もやましいところがない」と思っても、それで私たちが義とされているわけはありません。ですから、キリストは神に赦しを祈る時、自分が他人に何をしているのかを思い起こせと命じられているのであります。私たちが誰かを赦せないと思う時、私たちは必ず自分が正しい、自分の正義に立っています。怒っている、憎んでいる、その心のままで他人を赦せるはずがありません。

「赦す」とはなんなのでしょうか。どのようにすれば私たちの心は人を赦すことができるようになるのでしょうか。この問いの答えは一つです。「赦すのは十字架を負うこと」です。キリストは私たちを赦すために、私たちの身代わりになって十字架についてくださいました。私たちの罪を帳消しにするために、ご自分が苦しみ傷ついてくださったのがキリストであります。本来なら、私たち自身が、受けなければならなかったものをキリストは私たちの代わりに受け止めてくださいました。キリストの十字架によって、罪深きものが赦されているのですから、神は、私たちも自分に負い目のある人を赦すことを願っておられるのです。

今日は旧約から詩篇 103 篇を読みました。8-9 節に父なる神はどのようなお方であるかが示されています。

主は憐れみ深く、恵みに富み、忍耐強く、慈しみは大きい。永久に責めることはなく、とこしえに怒り続けられることはない。

私たちの神は赦しの神であるということです。しかしこの言葉は私たち人間が何をしても大目に見て寛容であるという意味ではありません。赦しを受ける側の悔い改めを前提としたものです。神の側には常に私たちの罪を赦そうという準備があります。けれども、私たちが神に信頼せず、いつまでも人を赦すことができずにいるなら、その思いは「私は悔い改めません」と神に宣言していることと同じでしょう。「私たちの負い目を赦してください」と願うなら、「自分が罪人であることを真摯に認めて悔い改めなければならない」のではないのでしょうか。「赦されるためには、赦さなければならない」のです。本当に赦せるかどうかは分かりません。それでも、主に従ってみる事です。自分の心にはではなく御言葉に近づくことです。

次にキリストが教えてくださった祈りの言葉は、「わたしを誘惑に遣わせず、悪い者から救ってください。」という祈りの言葉です。誘惑に陥れば、罪を犯

すこととなります。私たちが生きて行く中で、悪しき者に捉えられて試練や苦難を経験せざるを得ないということは確かにあります。襲い掛かる最も恐ろしい誘惑は、神から私たちを引き離すこの世の力です。洗礼を受け、キリスト者になっても、何のトラブルも無い、平穩、無事な生活を約束されているわけではありません。日々の生活の中で様々な誘惑に直面します。なぜ、こんな目に遭わなければならないのかという思いから、神への信頼を失うこともあるでしょう。悲しみが大きいと、苦しみが大きいと、教会に行く気力が湧かない。あるいは自分にとって掛け替えの無いもの、愛する人の言葉に惑わされて教会から遠ざかってしまう。ありとあらゆることが誘惑になり得ます。信仰生活を続けることは決して簡単なことではありません。けれども、

聖書の言う「誘惑」とは、私たちが「罪」に陥れることを目的にしているわけではないのです。聖書は試練によって信仰的に鍛えられ、成長し、より確かなものになるという深い真理を伝えています。旧約聖書の申命記 13 章 4 節に

あなたたちの神、主はあなたたちを試し、心を尽くし、魂を尽くして、あなたたちの神、主を愛するかどうかを知ろうとされるからである。(申 13:4)

という言葉がある。「知ろうとされる」というのは、ヘブライ語(ヤ-ダ 7 דָּ)では「知らせようとして自らを表す」という意味の言葉です。私たちが経験する苦難や誘惑は、神が神の存在を知らせるための行為だということです。神を信じていると言いながら、全てを任せることができない者への、時に、神を忘れ、自分の思いや判断や都合で物事に当たろうとする者へ、神はご自身を表してくださいののです。誘惑や試練に遭って、それでも神を忘れることなく、見失うことがなければ、必ず、神が語りかけてくださいます。神が語りかけてくださる声が聞こえてくるようになるのです。

しかし、心は燃えていても、肉体は弱いのが私たちです。私たちの弱さを知っておられるから、キリストは「我らを、試みに合わせず、悪より救い出し給え。」と祈ることを教えてくださいました。また、この祈りは自分のためだけに祈るのではないのです。互いの弱さを知っている教会の兄弟姉妹と共に祈り合うための祈りの言葉でもあります。

キリストは「主の祈り」の最後にもう一度、「罪の赦し」について教えられます。弟子たちに「赦し」の大切さを繰り返し強調されているのです。罪の赦しを常に新しく祈り求めるということは、「完全な教会など存在しない」、「完全な人間など存在しない」という点において、聖書全体の教えを貫いています。私たちは知らなければなりません。自分がどんなに多く赦されているか、人を赦すことは本当に難しいことです。それでも、私たちは赦さなければなりません。自分の赦しだけを願って終わるのではなく、「人を赦す」という課題に向き合わなければならないのです。キリストが「人の過ちを赦しなさい」と語りかけてくださるのですから、赦せるか、赦せないか思い悩む必要はありません。自分が赦されるために、人を赦すために、十字架を見るのです。私たちは、キリストの命によって祈ることを赦され、賛美することを赦され、礼拝することを赦されています。私たちはキリストの十字架によって罪の赦しを受けた者たちでありますから、「主の祈り」を共に祈り、すべて主に委ねて、歩んでまいりましょう。

お祈り致します。

主イエス・キリストの父なる神さま、御言葉を心から感謝致します。主

よ、どうぞ、私たちが、これからは「主の祈り」を共に祈ることで、あなたの御心を知ることができるようになります。私たちが命のパンを求め、罪の赦しの恵みを求め、あなたが備えてくださった道を歩む者としてください。

これから聖餐に与ります私たちが、十字架の主を見つめつつ、悔い改めて、人を赦すことができる者となれますよう、聖霊が導いてください。

私たしの救い主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:445「ゆるしてください」

聖晚餐 ニカイア・コンスタンティノポリス信条の告白 和解の挨拶

讃美歌:81「主の食卓を囲み」

献金・感謝(増田多可子)・主の祈り(讃美歌 21 93-5A)

天の父なる神さま、あなたの聖名を賛美致します。一人ひとりの名を呼び、礼拝に集めてくださり、心から感謝致します。私たちは今日、佃先生を通して『罪と赦し』の御言葉を戴きました。この戴いた御言葉を心に留めて、心の糧としてこの一週間を歩ませてください。

私たちには必要な物が与えられています。そして主の僕として生きることが赦されております。今、夫々が与えられた物の中から、感謝と献身の徴として御前に御献げ致しました。どうぞ祝して教会の御用のためにもちいて下さい。

主が教えてくださいました「主の祈り」を共に祈り、この一週間を始めさせていただきます。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌 91「神の恵みゆたかに受け」

派遣と祝福(司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。会衆:私がここにおります。私を、お遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。)

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたが一同と共にあるように。アーメン。

報告:

(1)信濃町教会創立百周年教会学校記念誌を刊行と配布の案内。教会員全員に配布。その期間と方法:本日礼拝後からイースター(3/20)まで。方法;受付机、用意した団体別名列名簿にチェックマークを入れ一人一冊ずつお持ちください。表紙と裏表紙は、教会学校クリアファイルと同様に、教会員の南幹子さんが担当。第一部:1984年から2023年まで約40年分のスナップ写真を掲載。第二部:75年史と同時に発行する予定が諸般の事情で発行できなかった『初穂』の原稿を20数年ぶりに掲載。

(2)社会委員会:(再び)日本基督教団部落解放センターの活動のための募金を。今日まで受付。

(3)週報記載「3/7(金)北支区連合祈禱会」午後7時 オンライン開催の再度の案内 この祈禱会は、3/11 東日本大震災覚えての祈禱会。

申し込み:kita49inori@gmail.com

後奏:「我ら唯一なる神を信ず」(J.S.バッハ)